

---

# セレスティア

鷹原美毅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

セレスティア

### 【Nコード】

N6805F

### 【作者名】

鷹原美毅

### 【あらすじ】

レフリーは、目の前に立っている老婆の行くべき扉を指し示した。そこは誰もが楽しそうに暮らしていて、幸せそうだった。彼は今日も、審判を続ける。

「……はい、次の人」

レフリーは素っ気なく言った。

「ありや、吉川さんとおのおばあちゃん」

レフリーは老婆から手渡された書類に目を通して、笑顔で言った。  
「80年も頑張ってきたんだねえ。お疲れ様。私の左側にある白い階段を登っていきばいいよ。みんな楽しく過ごしてるからね」

その言葉に、老婆はゆっくりと頷いて左側の階段へ向かっていった。緑の広がる世界が扉の向こう側に一瞬見えた。

「はい、次……」

そう言うのと、レフリーは目を見開いて言葉を継いだ。

「あんたは……うーん、その黒い扉。じっくり反省しな。あ、この場所でも死ぬことはあるから、注意しろよ。」

どういうこと、だって？ ……あんまりやり過ぎた奴は存在自体がなくなるんだよね。入る時も、油断は」

ボサボサの頭をした、気味の悪い太った男は、レフリーの言葉を聞き流して黒い扉を開けた。その瞬間、得体の知れない刃物で股間を貫かれ、絶叫しながら扉の向こう側に引き込まれていった。

「……禁物だよ。女は恨みを忘れないんだぜ？」

レフリーは溜息を吐いて言った。

「次、どうぞ」

次に入ってきたのは、軍服姿の男達だった。

「こりやまた、いっぱい来たねえ。2年間も戦って、つらかっただろうね。しかも上官に裏切られるなんて……」

全員……いや、その偉そうなツラしてる人以外は白い階段へ。

今までより全然いい世界だよ。

偉そうなツラしてる人は右側の赤い扉へ。……二度と味方を置いて逃げるなよ」

全員がそれぞれの扉を開けて、その場から去っていった。赤い扉の向こう側には、怒号を発する剣を持った男や血だまりの中に倒れている人の姿があつた……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6805f/>

---

セレスティア

2010年10月17日00時07分発行